



西大寺は、奈良時代天平神護元年(765)に創建された。官大寺を総称する「南都七大寺」の1つに数えられ、2015年に創建1250年を迎えた。奈良時代、聖武天皇・光明皇后の後を継いだ娘帝の称徳天皇が「常騰を開基として鎮護国家」の思いを込めて開創し、東大寺などと並び称される寺格を誇っている。当時は広大な寺域に多数の堂塔が建ち並び、東大寺と共に栄えていたが、承和13年(846)以後数多の火災にあい、創建当時の建物はほとんど焼失した。

天平神護元年、飛騨国大野郡大領の飛騨国造高市(たけち)麻呂(まろ)が造西大寺大判官に任命されている。高市麻呂は天平勝宝元年(749)、飛騨国分寺に知識物を献じたことで外正七位下から外従五位下に叙せられた人物で、西大寺に大野郡の墾田を寄進している。西大寺の造営には高市麻呂のもと、高市麻呂の故郷の飛騨匠が動員されたことであろう。

中世・鎌倉時代には、稀代の高僧・叡尊(えいそん)が出て、密教において戒律を重視した教え(後の「真言律」)を広め、「興法(こうぼう)利生(りしょう)」をスローガンに独自の宗教活動を推進している鎌倉時代に叡尊により復興されたが、戦国時代には再び火災で焼失した。現在残っている本堂(重文)、愛染堂(重文)、四王堂(重文)などは江戸時代中期に建てられたもの。叡尊が始めた「大茶盛」の寺としても有名である。現在の寺域は約1万坪と広い。

奈良時代に本願称徳天皇(女帝、退位後再び即位して孝謙天皇)の「鎮護国家」の願いによって創建された。鎌倉時代に叡尊(諡号は興正菩薩)上人の「興法利生」の場として復興された。

鎌倉時代の律宗の僧。律宗中興の祖。字は思円。西大寺で受戒し、戒律によって非人、乞食の救済を志し6万人余に授戒したという。著書に『梵網古迹文集』(10巻)、『感身学正記』(3巻)などがある。弘安4(1281)年の蒙古来襲時に神風を祈願したことで知られている。



0001\_不動堂(護摩堂)



0002\_不動堂(護摩堂)



0003\_不動堂(護摩堂)



0004\_不動堂(護摩堂)



0005\_光明殿



0006\_光明殿



0007\_南門



0008\_南門



0009\_南門



0010\_南門



0011\_南門



0012\_南門



0013\_南門



0014\_南門



0015\_周辺



0016\_周辺



0017\_四王金堂



0018\_四王金堂



0019\_四王金堂



0020\_四王金堂



0021\_四王金堂



0022\_四王金堂



0023\_四王金堂



0024\_四王金堂



0025\_四王金堂



0026\_四王金堂



0027\_四王金堂



0028\_境内



0029\_境内



0030\_境内



0031\_境内



0032\_境内



0033\_境内



0034\_境内



0035\_境内



0036\_境内



0037\_境内



0038\_境内



0039\_境内



0040\_境内



0041\_境内



0042\_境内



0043\_境内



0044\_境内



0045\_境内



0046\_境内



0047\_境内



0048\_境内



0049\_境内



0050\_境内



0051\_境内



0052\_境内



0053\_境内



0054\_境内



0055\_境内



0056\_境内



0057\_境内



0058\_境内



0059\_境内



0060\_境内



0061\_境内



0062\_境内



0063\_境内



0064\_境内



0065\_境内



0066\_境内



0067\_境内



0068\_境内



0069\_境内



0070\_境内



0071\_境内



0072\_境内



0073\_境内



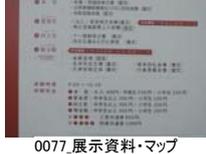
0074\_大師堂



0075\_大師堂



0076\_展示資料・マップ



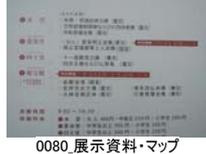
0077\_展示資料・マップ



0078\_展示資料・マップ



0079\_展示資料・マップ



0080\_展示資料・マップ



0081\_展示資料・マップ



0082\_愛染堂



0083\_愛染堂



0084\_愛染堂



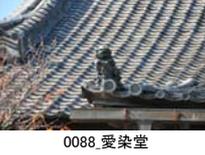
0085\_愛染堂



0086\_愛染堂



0087\_愛染堂



0088\_愛染堂



0089\_愛染堂



0090\_愛染堂



0091\_愛染堂



0092\_愛染堂



0093\_愛染堂



0094\_本堂



0095\_本堂



0096\_本堂



0097\_本堂



0098\_本堂



0099\_本堂



0100\_本堂



0101\_本堂



0102\_本堂



0103\_本堂



0104\_本堂



0105\_本堂



0106\_本堂



0107\_本堂



0108\_本堂



0109\_本堂



0110\_本堂



0111\_本堂



0112\_本堂



0113\_本堂



0114\_本堂



0115\_本堂



0116\_東塔跡



0117\_東塔跡



0118\_東塔跡



0119\_東塔跡



0120\_東塔跡



0121\_東塔跡



0122\_東塔跡



0123\_東塔跡



0124\_東塔跡



0125\_東塔跡



0126\_東塔跡



0127\_東塔跡



0128\_東塔跡



0129\_東塔跡



0130\_東塔跡



0131\_東塔跡



0132\_東塔跡



0133\_東塔跡



0134\_東塔跡



0135\_東塔跡



0136\_東塔跡



0137\_東門



0138\_東門



0139\_東門



0140\_東門



0141\_東門



0142\_東門



0143\_石碑



0144\_石碑



0145\_石碑



0146\_石碑



0147\_石碑



0148\_石碑



0149\_石碑



0150\_石碑



0151\_石碑



0152\_石碑



0153\_聚宝館



0154\_聚宝館



0155\_聚宝館



0156\_鐘樓



0157\_鐘樓



0158\_鐘樓



0159\_鐘樓



0160\_鐘樓



0161\_鐘樓



0162\_鐘樓



0163\_鐘樓



0164\_鐘樓



0165\_鐘樓